

プレ公開III（公開授業研究会）

————— 全体研究協議会

テーマ

学校教育目標から考える、

総合的な学習の時間と探究

研究部

07.03.2025

TABLE OF CONTENTS

01 | はじめに

02 | 総合的な学習の時間について

- ・ 本校の総合的な学習の時間について
- ・ 各学年の取組

03 | 八田幸恵先生より

テーマをもとにした、ご助言、講義

04 | 質疑・応答

05 | 諸連絡

- ・ アンケート記入のお願い
- ・ 11月の本公開のお知らせ

01 はじめに

02 総合的な学習の時間について

前次研究まで

SDGsをテーマとした探究活動（Save The Earth Project）を実施、生徒の資質・能力の育成を図った。

これは、探究活動によって本校が独自に設定した8つの資質・能力を育成しようというものであった。また、「SDGsを核としたカリキュラム・マネジメントの実現」を研究副題として研究を行っており、総合的な学習の時間はその中心となっていた。

前次研究での、カリキュラムを考えていくにあたっては、学校教育目標を捉え直すことが大事であるご指摘を受け、本次研究では学校教育目標を捉え直した上で「総合的な学習の時間」の目標についても考えていった。

	豊かな創造性	たくましい実践力
1年生	- 問題解決のための知識・技能を身につけ、物事を多角的な視点で考えることができる。 - 自分の興味・関心は何なのかを見つけることができ、探究・追究していくための問いを立てることができる。 - 身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができる。 - 問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。	- 自分の強みと弱みをわかっている。 - 目標設定をし、達成に向けての計画を立てて取り組むことができる。 - できる・できないにかかわらず、行動に移すことができる。 - 上手いかなかったときに、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。
2年生	- 問題解決のための知識・技能を身につけ、解決に向けて多角的に柔軟性をもって対応していくことができる。 - 問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。 - 自分の興味・関心は何なのかを見つけることができ、探究・追究していくための問いを立てることができる。 - 身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができ、解決(解明)する問いにしていけることができる。 - 自身のウェルビーイングを実現するためには、何が必要かについて考えることができる。	- 自分の強みと弱みをわかったうえで、足りないものが何かを考え、強みに変えていく努力ができる。 - 目標設定をし、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤しながら目標達成に向けて取り組むことができる。 - 課題解決、自己実現に向けて行動に移すことができる。 - 上手いかなかったときに、どうすれば上手いくかを考えることができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。
3年生	- 問題解決のために、身につけた知識・技能を必要に応じて取捨選択し、「生きて働く知識・技能」として使うことができる。また広い視野を持ち、新たな視点や多角的な視点で問題解決のためのアイデアを出すことができる。 - 自分の興味・関心から、探究・追究していくための問いを立てることができる。 - 身の回りや社会、世の中にある事象に対して、疑問をもつことができ、解決(解明)する問いにしていけることができる。 - 確かな情報を集めることができる。そして、そこから自身の考えを構築できる。 - 自身のウェルビーイングを明確にし、実現のために自分にできることを考え、行動に移すことができる。	- 自分を分析し、強み弱みを理解したうえで、さらに自己を高めるために必要な方法を見出し努力することができる。 - 目標を設定したうえで筋道を立てて論理的に考え、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤を繰り返しながら、目標達成に向けて取り組むことができる。 - 課題解決や自己実現に向けて、前向きに取り組んだり、行動に移したりすることができる。 - 上手いかなかったときに、改善点を見出すことができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。課題の解決や、自分と他者、社会のウェルビーイングの実現に向けて、諦めずに努力し続けることができる。



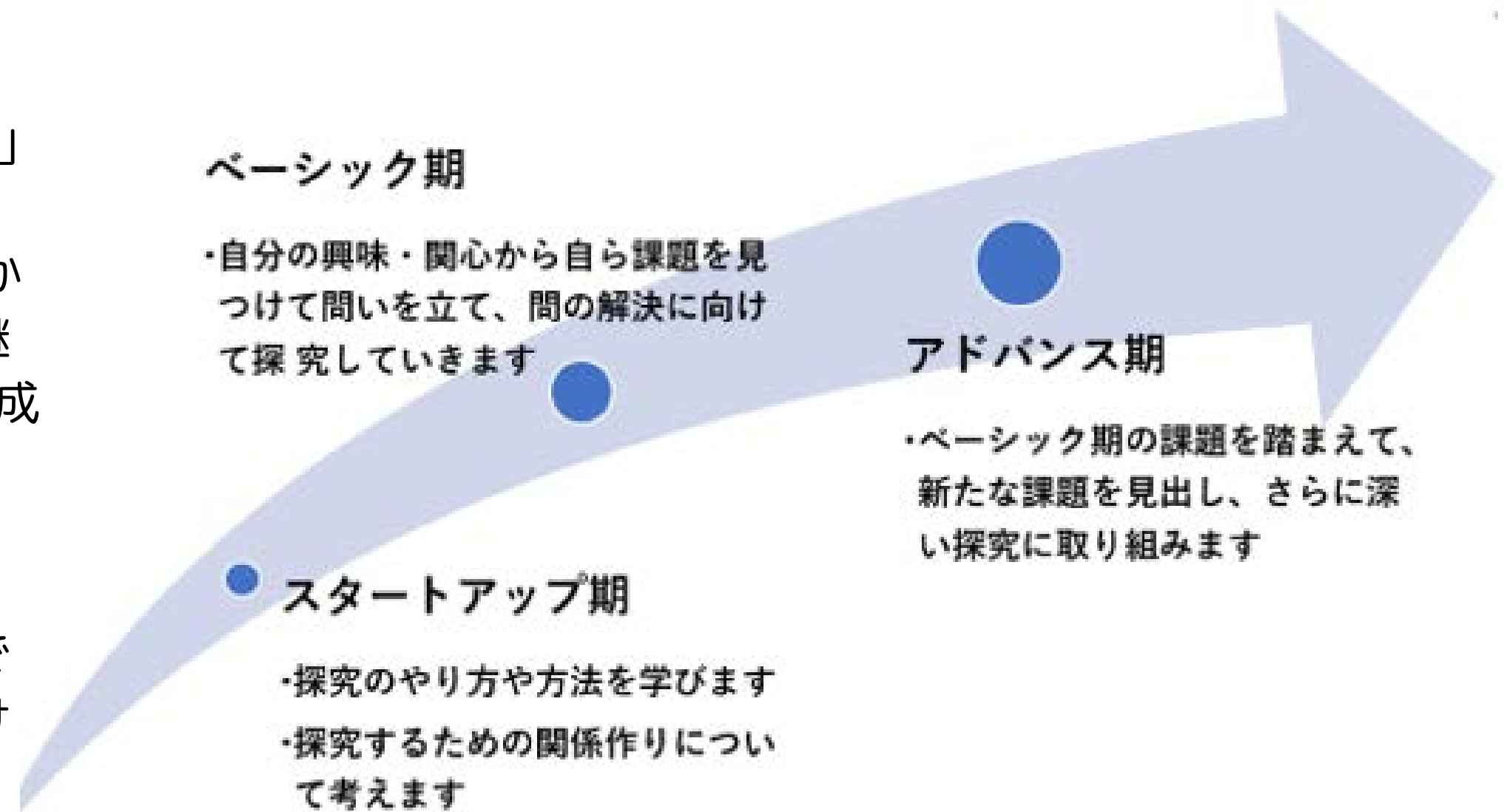
生活をきりひらく
- 自分の身の回りや社会にある問題に対して問題意識を持ち、解決に向けて行動したり、未だ解明されていないことに対してとことん追究したりすることができる。 - 社会を構成する一人であるとの自覚を持ち、当事者意識をもって行動することができる。 - ウェルビーイングの実現に向けて、どうすれば実現可能かを考え、前向きに取り組もうとする。 - 何か問題が生じたときに、解決に向けて、自ら行動を起こすことができる。 - 自ら問題を発見し、その解決に向けて行動することができる。 - 積極的に社会の中で活躍しようしたり、自分の良さを生かしたりしようとしている。 - 広い視野で物事を捉え、考え、ときに他者と協力しながら自身のウェルビーイングと他者のウェルビーイング、さらには社会のウェルビーイングの実現のために、行動を起こすことができる。

02 総合的な学習の時間について

探究の進め方

3年間を見通して、「総合的な学習の時間」に取り組むこととした。
1年ごとの断続的な取組ではなく、1年生から段階的に学習を進め、3年間を通して継続的に活動を行うようにし、3年間での完成を目指した。

また、年間指導計画を作成し、学校全体で「総合的な学習の時間」に取り組んでいけるようにした。
指導計画は作成しているが、生徒のようすから必要に応じて話し合いを持ちながら進めている。



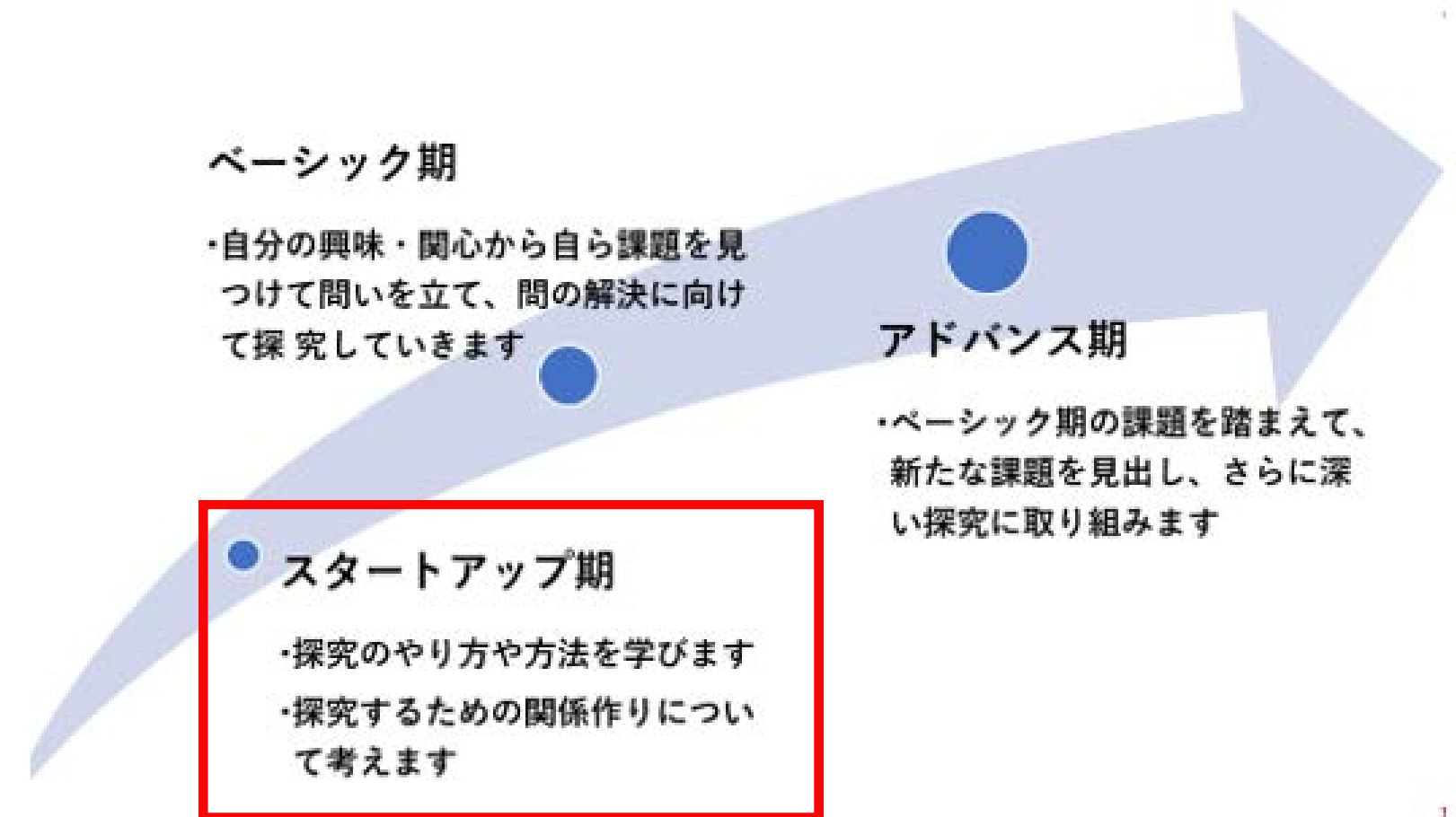
	4月	5月	6月	7月	8月・夏休み	9月
1年生	エンカウンター (仲間づくり)		教員による ラボの実施	研究に向けて 説明	はじめての 探究準備 教科自由研究	自由研究の発表
2年生	エンカウンター (仲間づくり)	研究を進める	研究を進める	研究を進める	研究を進める	研究報告会 (中間発表) これまでの研究 をまとめて報告
3年生		個人研究 スタート 研究を進める ----- 修学旅行 (平和)		今後の予定の確認		

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	研究の手法 講座(映像) 最終発表見学(10月末)		校外学習 (町探検)	校外学習 まとめ	研究の問い立て (次年度に向けて)	
2年生	最終発表	振り返り レポート作成		研究の問い立て (次年度に向けて)	校外学習 (防災・平和)	研究の問い立て (次年度に向けて)
3年生						

02 総合的な学習の時間について

1年生【スタートアップ期】

- 探究のやり方、探究を進めていくための手法や方法を学び、共に協力しながら活動を行うための関係性を構築していく期間



仲間づくり（エンカウンター）

問いをつくってみよう

探究してみる① 自分たちの学級や学校に目を向けて考えてみよう

校外学習

02 総合的な学習の時間について

2年生【ベーシック期】

- 1年次の活動を踏まえつつ、自身の興味・関心から問いを立てて、その解決に向けて探究を行っていく。

ベーシック期

- ・自分の興味・関心から自ら課題を見つけて問いを立て、問の解決に向けて探究していきます

スタートアップ期

- ・探究のやり方や方法を学びます
- ・探究するための関係作りについて考えます

アドバンス期

- ・ベーシック期の課題を踏まえて、新たな課題を見出し、さらに深い探究に取り組みます

3年生【アドバンス期】

- ベーシック期の課題を踏まえて、3年間の集大成としてさらに深い探究に取り組む。テーマや問いは、ベーシック期から継続でも、変更しても構わない。

02 総合的な学習の時間について

前次研究から継続していること

- 1年生を探究を行うための準備期間としたこと。
- 2, 3年生合同の縦割りのクラスで行っていること。

変更したこと

- テーマや問いの設定をSDGsから、生徒の興味・関心から考えるようにしたこと。
- グループでの探究を、個人探究にしたこと（場合によってはグループも可）。
- 「附中クエストDAY」を設定したこと。
- 1時間の授業時間を面談の時間としたこと。

02 総合的な学習の時間について

なぜ変更していったのか

テーマや問いの設定をSDGsから、生徒の興味・関心から考えるようにした。

SDGsをテーマに探究活動を行っていた際、興味・関心を持ってできる生徒と、そうでない生徒がいた。探究や研究は、自身の中に「やりたい、知りたい」がなければならぬのではとの考えから、まずは入り口として、生徒自身の「興味・関心」から問いを立てていこうと変更を行った。

昨年度（令和6年度）の振り返りの生徒アンケートでは、「自分のやりたいことができた」「楽しかった」との回答が多くあった。しかし、その反面、自分の興味・関心が分からない、問いが立てられない、生徒も少なからずおり、なかなか研究が始められないといった状況も見られた。

02 総合的な学習の時間について

なぜ変更していったのか

グループでの探究を、個人探究にした（場合によってはグループも可）。

前次研究までは、基本的にグループでの探究としていた。ただし、テーマによっては、個人での探究も可としていた。ほとんどの生徒がグループを組み、活動を行っていたが、人数が多くなるほど、手持無沙汰の生徒が増え、自身のグループが何をやっているのか把握できていない生徒も出てきた。

まずは、個人で探究ができなければとの考えから、個人探究へと変更を行った。しかし、やはり個人で進めていくには難しい生徒がいることや、研究自体、共同研究の方が多いいところから、個人探究を基本としながらも、グループを編成すること可としていった。

02 総合的な学習の時間について

なぜ変更していったのか

「附中クエストDAY」を設定した。

昨年度の探究活動では、外部との関りが非常に少なかったという実情があった。それは、例えば校外へと出て行くとき1時限の授業では出にくかったのではないかということ、また、次の授業がいつあるのかが分からず、アポイントがとりにくいのではないかということが考えられた。

そのため、2時限続きの「附中クエストDAY」を設定し、その日にさまざまな活動を行ったり、外部とつながったりすることができるようにした。また、「附中クエストDAY」の日程をあらかじめ伝えておくことで、計画性をもって活動できるようにしている。

02 総合的な学習の時間について

なぜ変更していったのか

1 時間の授業時間を面談の時間とした。

昨年度、活動を進めていく中で、生徒と話す機会を持てなかったことが反省として挙げた。生徒が今何をしているのか、何に困っているのかを話す時間をとることができなかった。授業時間内に生徒と面談を行うことで、何をしているのかが把握でき、また生徒も話すことで、自分がしていることの整理ができるのではないかと考えた。ファシリテートしていくという点からも、面談を入れることとした。

現在も、探究活動の時間には面談を行っているが、生徒とじっくり話すとなると時間が足りないという実情もある。

02 総合的な学習の時間について

生徒のようす

「附中クエストDAY」を設けたことで、そこに向けて活動しようという意識は出てきており、昨年度より活発に活動しているように見える。しかし、活動を行うことが目的になってしまい、何のためにやるのか、なぜその活動を行うのかが、明確にできていない生徒がいることもまた事実である。

昨年度は、何をしたらいいのか分からず、なかなか探究を進められない生徒がいたが、今年度はそのような生徒は見受けられない。これには、グループを組んでもよいとしたためとの考えもできるが、その検証には至っていない。

02 総合的な学習の時間について

今後について

今後は、10月下旬～11月上旬頃に最終発表会を行う予定である。そこまでは、生徒が各自で探究を進めたり、授業のなかで進めたりしていく。

また、今回のこの研究を、どのように評価していくのかが課題である。総合的な学習の時間の目標があるが、どのように見とり評価していくのかは、今後も検討が必要である。

そして、現在、三重大学教育学部の村田晋太郎准教授、谷口あや助教にも協力を得、「探究活動と学習に関するアンケート」を生徒たちに実施している。結果の傾向から、探究活動をしていくにあたって、どのような支援が必要なのか、どのような手立てを講じれば、探究がより良いものになっていくのかを見直す機会となっている。

生徒たちが、探究活動によって「生活や社会をきりひらく」力をつけていけるよう、今後も方法を見直し改善しながら進めていきたいと考えている。

02 総合的な学習の時間について

各学年より

1年生 庄山大樹

2, 3年生 信田雅裕